京都教区時報

カトリック京都司教区
広報委員会
京都市中京区
河原町通三条上る
TEL 075-211-3025
FAX 075-211-3041
honbu@kyoto.catholic.jp

https ://www.kyoto-catholic.net/

2023年　司教年頭書簡
コロナ時代を生きる信仰Ⅲ
「わたしのシノダリティを創ろう」を受けて

第7回　キリストの教会だからこそ

「教会の全てのメンバーが奉仕者として宣教に参加する」（年頭書簡5）

能率、効率、生産性が重視される現代社会では、様々な理由で目まぐるしい変化について行けない多くの人を置き去りにし、豊かな多様性を犠牲にしがちです。そのことで体調を崩したり、生きがいが持てなかったり、居場所を失ったりして声も上げられない人たちに、イエスがそうされたように、上から目線ではなく寄り添い、ともに歩くように招かれています。

私たちは、一人ひとり出会い方は違っても、いつまでも忍耐強く待ってくださる神、うまずたゆまず愛し続けてくださる神との出会いがあったからこそ、「世の価値観」の対極にあるイエスのメッセージをあかしすることができるのだと思います。

キリストの教会だからこそ、お互いを「たいせつ」にし合って、今、生きていることを喜び合える生き方を社会に「PR」することが私の夢です。

「司祭、修道者、信徒がシノダリティの精神で支え合う共同体」（年頭書簡5）

「共同責任」や「識別」という言葉は難しく感じますが、司祭、奉献生活者、信徒がそれぞれの役割の違いを尊重し、それ以外では対等に話し合い、分かち合い、学び合い、助け合える有機的な共同体では、既におのずとそれが実現できているように思います。

それぞれ個性があり、考え方ややり方、意見の違いのすり合わせには多くの労力や時間を要します。信徒として自立している必要もあるでしょう。けれども根っこに信仰があり、必ず聖霊が働いてくださる、という信頼があれば、神は必ずよい方向に導いてくださるはず、と楽天的に考えています。

今回のシノドスの歩みがパンデミックと重なったことは、ある意味「時のしるし」だったのかも知れません。教会共同体は、社会にキリストのメッセージをあかしするための原動力です。キリストの教会だからこそ、ただコロナ禍の前に戻るのではなく、コロナ禍で見えて来たものを、失敗や挫折の結果見ることができるものを、何よりも大切にできる場所であってほしいと思います。「力は弱さの中でこそ十分に発揮されるのだ」（Ⅱコリ12・9）。

地上の教会は世の終わりまで「シノダルチャーチ」であろうともがきながら、旅（journey）を続けていきます。

京都教区シノドスへの回答集計担当
福音宣教企画室　髙田晶子

8
2023

韓国チェジュ教区
「聖母の夜」行事参加と聖地巡礼の旅
報告
5月24日～27日

京都教区とチェジュ教区は、2005年6月7日に姉妹教区の縁組をし、司祭・神学生・信徒間の交流を行っています。しかし、新型コロナ感染症の影響で2020年から中止されていた巡礼を、4年ぶりに行うことができました。

定員いっぱいの方々の参加があり、同行司祭は、団長の大塚司教と、ランディ神父、ソ神父。以下、三泊四日の巡礼の旅の報告です。

旅行のおもな日程

24日　関西国際空港から済州国際空港へ
　　ムン司教様主催夕食会
25日　四・三平和公園
　　カテドラル、本部事務局訪問
　　「聖母の夜」行事参加
26日　恵みの丘巡礼　十字架の道行
　　ハンリム教会訪問
　　聖キム・デゴン神父漂流記念館
　　カン司教様とティータイム
27日　済州国際空港から関西国際空港へ

不思議な導き「聖母の夜」

滋賀ブロック担当・チェジュ教区司祭
ソ・ウォンハ

始めは不安と心配でいっぱいでした。一番大きな理由としては自信がなかったからです。今まで京都教区とチェジュ教区の交流に関する行事では先にベテランの先輩司祭が担当になって、後輩は肩越しでそれを習い、その次に担当になることが定番だったと聞きました。しかし、今回はベテランのホン神父様は世界青年大会に向けて大変忙しかったので、やむを得ず、新人の私が担当になってしまいました。さらに参加者の中には何回も巡礼に参加したことがある方を含め、司教様まで同伴してくださることになり、肩の荷がさらに重く感じてしまいました。最後には台風が近付いているとの予報まで聞いて、頭が真っ白になりました。このような何もできない無力感は、久々に感じました。全て神様に委ねながら、マリア様に取り次ぎを願いました。

今回の巡礼の中で「神様の導きは不思議」と何回も感じました。初めは初日に訪ねた「新チェジュ小教区」でした。夕食まで時間が微妙に余ってしまったので、一番近い小教区に訪問して少し時間をつぶす程度のつまらない計画でした。ところが、新チェジュ小教区の主任神父様は、京都教区との交流を始めたときに本部事務局で交流担当をしていたゴ・ビョンス神父様でした。思わぬ出会いに巡礼団を大歓迎して、交流の始まりの話を詳しく話してくださいました。

次に不思議と思ったことは聖母の夜のミサでした。ミサの前に本部事務局から通信機を渡され、巡礼団に説教などを通訳してお伝えするように準備をしました。しかし、ミサが捧げられる屋外は風がとても強くて非常に聞き辛いと思いました。これはあかんわ…と、ほぼ諦めましたが、巡礼団の皆さんはしっかり聞き取れていたと答えてくださいました。

最後の不思議は三日目の「ハンリム小教区」であったことです。京都教区で司牧されたキム神父様の提案で、ミサ後、小教区の方々と分かち合いの時間をいただきました。初めましての方々と言葉も文化も異なるので大丈夫かな…と心配でした。ところが実際はお互いに話す時間が足りない、惜しいくらい楽しく豊かな時間でした。お別れを惜しんでいた表情が心に残りました。

思わぬ出会い、予想を越える繋がり、心配を乗り越えた分かち合いがあり、無

事に巡礼を行うことができました。神様の不思議な導きに感謝しながら、司教様を含め、巡礼団の皆様に感謝をお伝えいたします。

初めてチェジュ島の巡礼に参加して

西大和カトリックセンター　宮崎康子

いつか巡礼に行きたいと思っていました。昨年から今年にかけて姉と母、そして三番目の兄と次々と亡くなりました。そんな時に京都教区のホームページでこの企画を見つけ、「行ける時に行きや～」と後押しをしてくれているように感じ、義姉（亡き二番目の兄の奥さん）高嶋弘子さんを誘いました。今年の長崎の巡礼には、91歳の方が参加されたとランディ神父様からお聞きしていました。以前西大和に来られていたホン神父様からも、チェジュはきれいな島だとお聞きしていました。弘子さんから即ＯＫの返事をもらい、申し込みに間に合いました。色々と助けていただきながら、チェジュ島に到着しました。

初日はムン司教様主催の豪華な夕食に与り、二日目のお昼はアワビの釜飯を大塚司教様と向かい合わせの席で頂き、「巡礼って楽しいですね」とルンルン気分でいました。

四・三平和公園では、四・三事件を懸命に話された方のお話を、ソ神父様が丁寧に通訳し、説明してくださいました。この発展した美しい島に１９４７年３月１日から１９５４年９月21日までの武力衝突と鎮圧で、市民の10パーセントにあたる人々が犠牲になって亡くなられたという悲しい歴史を知りました。

そして、「聖母の夜」は、恵みの丘でミサが行われ、司教様、司祭方約50人、信者約三千人が集まり、風が吹き、少し肌寒い中で聖歌隊の演奏もしっかりしていて、皆さんとペンライトで照らしながら賛美し、とても感動的でした。その後、ロザリオをあしらった池の周りを、皆さんとロザリオの祈りをしながら歩きました。神様の子どもという共通の兄弟姉妹がいることはなんと幸せなのだろう。

チェジュの信者さん達は大歓迎で迎えてくださり、どこまでもおもてなしをしてくださいました。85歳の義姉と参加できた事もとても良かったです。多くの兄弟姉妹との出会いがあり、お恵みの多い巡礼でした。神様に感謝。

正義と平和協議会　学習会

水俣病の体験に学ぶ

5月13日　河原町教会ヴィリオンホール

報告　マグダレナ美千代

京都教区正義と平和協議会では、講師に水俣フォーラム理事長の実川悠太（じつかわゆうた）さんと、水俣病患者の小笹恵美（おざさめぐみ）さんをお迎えして「水俣病の体験に学ぶ」と題して学習会を開催しました。

実川悠太さんは学生の頃から水俣に関わり始めて40年、水俣病で苦しむ人と関わり、また水俣フォーラムを通して一人でも多くの人に水俣を知らせる活動をされています。

小笹恵さんは水俣の対岸にある獅子島で生まれ、人生の途上で水俣病にかかり、長い年月の間、苦しみを背負いながらも、日本の大きな公害の問題について取り組んでこられました。

学習会では、どのようにチッソが猛毒の水銀を水俣の海に流すようになったのか、水俣病の加害行為がどのように形成されていったのか、１９７０年代から80年代にかけて、私たちが知っている水俣病の人達の苦しい闘いや補償の問題が、どのように形成されていったのか。そして、チッソとも関連する科学の発達を享受する私たちの今現在の関係についても学びました。

実川さんは、その地に生きていた人々がどのように受け止めていたのか、何を感じていたのかなどについて、小笹さんに丁寧に聞き出しながら、話を進めていかれました。

水俣病とは

水俣病は、熊本県水俣市で操業を始めたチッソ株式会社（チッソと表記）の化学工場から排出されたメチル水銀化合物を、魚介類が直接吸収して体内に蓄積し、これを日常的に食べていた住民に発症した中毒性の神経疾患で、脳や神経に損傷を負わせました。

チッソ創業者　野口遵（したがう）

１８７３（明治６）年、金沢藩の下級武士の家に生まれました。父親は尊王攘夷派であったために入牢するなど苦労しましたが、国のため、人々の暮らしのためにという意識が非常に強く、野口も子どもの頃から勉強熱心で、人々の暮らしについても考えていたようです。彼は東大に入学して電気化学を学び、卒業した後、シーメンスなど多くの会社に勤務した後、日本で初めてカーバイド製造事業を始めます（１９０７年日本カーバイド商会設立）。

彼がやりたかったのは、化学で肥料を作ることでした。明治の中頃の日本における肥料は、人糞や枯葉で腐敗させて作り、使えるまでに時間がかかりました。そのためアメリカから輸入していた化学肥料を作りたかったのです。安い原料を使って外国に高く売って儲けると、貧しい人達のためにもなると考え、１９０８年、日本窒素肥料（のちのチッソ）を設立し、水俣工場でカーバイド製造を開始しました。

第一次世界大戦の煽りで特需が起こり、新興財閥が生まれて、日本の侵略戦争を通して朝鮮や中国にも進出していきます。１９３２年にチッソはアセトアルデヒドの生産を始めたのですが、この工程で使われたのがメチル水銀でした。

第二次世界大戦が始まるとアメリカが攻撃を仕掛けてくるのは化学工場だということで操業できなくなりましたが、汚染はそのまま残されました。そして敗戦になると食糧難の折から化学肥料が必要ということでＧＨＱの支援を得て、アセトアルデヒド工場が操業を始めるので

す。汚染は水俣だけでなく、不知火海にまでどんどん広がっていきました。

小笹恵さんが体験したこと

小笹さんが生まれた獅子島は湾にあったので、大きな船が通るだけで鰯が打ち上げられ、キラキラ光ってものすごく綺麗でした。鰯が揚がった日は、村総出で浜で大きな釜で茹でて煮干しにしたり、1年分の塩辛を作ったりしていました。山と海の隙間にすんでいるような感じで、お米は作れないし畑もないし麦をちょっと作るくらいで、米と麦が混じったご飯に魚が主食の生活でした。小学校の5年生になったとき、家で飼っている豚や牛、鶏が死にました。両親も何か異変を感じてはいたのですが、隠していたし、水俣町も病気のことは隠していました。小学校6年生の時、魚が捕れなくなって、親戚を頼って水俣町に引っ越しするのですが、そこが病気の多発地帯ということも知りませんでした。

父は会社勤めになって、ちょっとの間普通の暮らしができました。水俣ではチッソは神さまで、もしチッソの悪口でも言おうものなら、それこそ村八分になりました。父はチッソの孫請けの会社でへどろを掻き出すような仕事をしていて、ある日倒れて意識が無い状態が続きました。

その後、父は大阪にいる姉を頼って出稼ぎに行くことに決めました。ちょうど万博の頃ですから、いろんな仕事がありました。私は送金もしてこない父を恨んでいました。私らはこんなに大変な生活をしているのにと。そして父を嫌いになっていきました。3年後に父は家族を大阪に呼び寄せましたが、私は大阪に行くことを嫌って単身名古屋に就職しました。

母は大阪に行ってからは殆ど寝たきりになっていました。兄は縁談が破談になり、弟は中学生になると度々ひきつけを起こしました。私自身もよくふらつきがあったり、真っ直ぐ立てなかったり…でも医師は思春期だから、そういうこともあると言いました。

母がきちんと調べてもらいたいと父に頼み込み、二人とも入退院の繰り返しでしたが、やっと、松原市にある病院が診てくれるということで、わざわざ引っ越しました。

しかし、申請しても診察日の通知など来ないのです。そのうち、両親は芦原橋に患者さんだけが集まって話をする場所があるのでと通い始めました。

水俣病患者の闘い

1969年頃、水俣ではチッソに対して裁判を始め、70年11月にはチッソの株主総会に乗り込んで会社の責任を問い、73年3月、裁判で勝利を勝ち取りました。

関西に住んでいる患者たちが裁判を起こすと決め、小笹さんのお父さんが原告代表になりました。小笹さんは「隠して欲しかった、イヤだと思った」と話されましたが、お父さんが亡くなった後、裁判を引き継がれました。

・・・

点訳版京都教区時報をご存じですか

1998年5月京都教区時報246号の1面の上部に、

点訳版
「京都教区時報」〈無料〉
ご希望の方は点訳ネット「レジナ」代表・嶽崎（たけざき）裕子さんまでお申し込みください。

というお知らせが初めて掲載されました。それから2020年12月517号までは1面上部に、21年1月518号からは最終面に掲載されてきました。

また、21年6月523号からは、点訳版の申込先が点訳ネット「レジナ」からカ障連大阪フレンドリー点字部に変わり、23年6月547号より、嶽崎裕子さんから笠松幸彦さんに代わりました。お気づきでしたでしょうか。

点訳ネット「レジナ」は、嶽崎裕子さんが立ち上げられたボランティア団体です。しかし、組織替えをされ、「日本カトリック障害者連絡協議会大阪フレンドリー点字部」として再出発されました。「日本カトリック障害者連絡協議会」の略称を「カ障連」というので、今度の組織は「カ障連大阪フレンドリー点字部」と呼ばれます。

そして今回、25年間、300号にわたって京都教区時報の点訳に携わってくださった嶽崎裕子さんは、ご高齢のために引退されることになりました。そのため、笠松幸彦さんに引き継がれることになったのです。

点訳版「京都教区時報」〈無料〉をご希望の方は『カ障連大阪フレンドリー点字部』笠松幸彦さんまでお申込みください。

現在は京都教区時報の最終面に、右記のように掲載されていますが、このままでは目の見えない方には届きません。皆さまのまわりに「点訳版・京都教区時報」が必要な方がおられませんか。「点訳版・京都教区時報をお読みになっていらっしゃいますか」とぜひお声かけください。

また、点訳に関心がおありの方は、カ障連大阪フレンドリー点字部まで連絡をしてみてください。

昔は「点字器」と「点筆」で点訳されていましたが、今は点訳用のソフトがあり、点字プリンターで打ち出すことができるそうです。

点字で有名なものは、駅や横断歩道の点字ブロックですが、エレベーターやビール缶、シャンプーやリンスのボトルなどにもついています。皆さまの身近にも点字がありますので、ぜひ興味を持って見つけてみてください。

長きにわたり、京都教区時報の点訳に携わってくださった嶽崎裕子さんに感謝申し上げるとともに、カ障連大阪フレンドリー点字部のさらなるご活躍をお祈りいたします。

広報委員会

カ障連大阪フレンドリー点字部
事務局　笠松幸彦さん
Tel/090-5661-4324
Fax/072-722-0271
メール/kasamatsu-yukisan@iris.eonet.ne.jp

トマのつぶやき

私の言葉を待っている人がいてくださるなら

私のこんなたどたどしい言葉を待っていてくださる方もあるという。

氷が溶けたら何になる。子どもは「春が来る」という。子どもがお地蔵様の頭を撫でながら「一人にしておいてごめんえ」と話しかけている。甥のM君は小さい時、保育士をしていた私の姉（彼の母）に連れられて幼稚園に通い、人気者だったそうだが、彼の祈りはいつも「おいちい、おいちい」だったという。食前食後に唱えるお兄ちゃん、お姉ちゃんたちの祈りがとても印象的だったのだろう。

子どものようにならねば天国に入れないと主は言われた。子どものような愛と単純さが、私にもあればよい。

村上透磨

2月18日に帰天された村上透磨神父は、病院のベッドの上で、「トマのつぶやき」の原稿を書いてくださっていました。遺稿を掲載します。

広報委員会

春プロジェクト報告

5月13日　唐崎メリノールハウスにて

今回の「春プロ」は、コロナ禍以降初めての対面での開催でした。「みんなで繋がろう」というテーマは、久しぶりの対面での開催に、ピッタリと当てはまると思いました。また『あしあと』という聖歌を元に、分かち合いをしました。私たちの生活の中でイエス様と共に歩んでいると感じる時はあるけれど、見捨てられたと感じた時に、イエス様は何も語られないけど、私たちの苦しみを一緒に背負っているという内容のものでした。皆様も是非一度自分の生活を振り返ってみたら、そういった経験があるのかもしれません。

私たち青年一同は、3年ぶりの対面での開催と相まって、初めて春プロの企画をするメンバーも多い中、不安な気持ちはありましたが、大きなトラブルもなく無事に終えることができました。これも全て参加していただいた皆様のおかげでもあるのと同時に、天におられる私たちの父のおかげでもあると思います。

長浜教会　菊川ガブリエル

つながるネットワーク 深めようコミュニケーション

京都カトリック青年センター

青年センターは、教区を越える青少年活動について
京都教区の窓口となるとともに、京都教区内の各教会、
青年の各諸活動をバックアップするための機関です。

← 青年センターのＨＰも見てね！

青年センターあんてな

大塚司教の予定

最新の情報は京都司教区のホームページにてご確認ください。
右記のＱＲコードからも確認できます。

お　知　ら　せ

教　区

信仰教育委員会

教会学校研修会

テーマ：「外国人の共同体から学ぶ」
日　時：８月26日㊏ 10:30〜15:30
講　師：シスター信田 祐子
（無原罪の聖母フランシスコ姉妹会）
対　象：教会学校リーダー、および18歳以上で教会学校の活動に関心のある方
問合せ：メールまたはＦＡＸにて
shinkoukyoikuiinkai@gmail.com
Fax/075-366-6679
申込は各小教区でまとめてお願いします

青少年委員会

中学生会夏の集い

日　時：８月17日㊍ 12:00〜18:00
場　所：唐崎メリノールハウス
テーマ：あなたがたに平和があるように
詳細は教区ＨＰ、小教区のポスター参照

広報委員会

Fax：075-366-6679
メール：honbu@kyoto.catholic.jp

教区時報10月号の原稿締切日は８月21日㊊です。

修　道　会

聖ドミニコ女子修道会

青年のための「みことばを聴こう」

日　時：９月30日㊏ 13:30〜16:30
場　所：聖ドミニコ女子修道院
河原町今出川下る
テーマ：「寅さんとイエス」
講　師：米田 彰男神父（ドミニコ会）
対　象：青年（18〜40歳）
参加費：500円
申　込：Eメール／ kyoto@dominic.or.jp
FAX ／075-222-2573
申込締切：９月25日

点訳版「京都教区時報」〈無料〉をご希望の方は『カ障連大阪フレンドリー点字部』笠松幸彦さんまでお申込みください。
Tel・Fax/072-722-0271

諸　団　体

京都キリシタン研究会

都の南蛮寺跡記念ミサ

日　時：８月27日㊐ 14:00
会　場：ウィングス京都（京都市男女共同参画センター）２階ビデオシアター室
京都市東洞院通六角下る
プログラム
14:00ミサ、14:50 研究テーマ発表と分かち合い、15:30 希望者はミニ巡礼、18:00 懇親会（懇親会参加は事前のお申込み要）
問合せ：古澤 吉次 090-2381-4630

京都カトリック混声合唱団

祈りと聖歌の集い　８月６日㊐ 14:00
練　習　８月26日㊏ 17:30
集会祭儀の奉仕　８月26日㊏ 18:30
河原町教会聖堂　一般の方も参加自由
問合せ：075-951-4283 則武 隆

心のともしび

ラジオ番組案内（全国34局で放送）
ＫＢＳ京都　㊊〜㊎ 朝５:55
㊏ 朝５:15
ラジオ関西　㊊〜㊎ 朝５:00
㊐ 朝６:05
毎日放送　㊊〜㊎ 朝５:45
㊏ 朝４:55
８月のテーマ「活かしあう」

京都司教区　司牧者異動のお知らせ

６月19日付

ヴィクトール・デラバン師
（エスコラピオス修道会）
三重北部ブロック担当司祭
（旧任命：三重地区協力司祭）

アントニオ・マチアス師
（エスコラピオス修道会）
三重北部ブロック担当司祭を解任

シスター ロリタ・オリア
（無原罪の聖母フランシスコ姉妹会）
フィリピンに帰国
（旧任命：フィリピン人司牧担当）